

## [004] 語文研究表紙奥付等

<https://hdl.handle.net/2324/10263>

---

出版情報：語文研究. 4/5, 1956-10-30. 九州大学国語国文学会  
バージョン：  
権利関係：

# 九州大文学会関係雑誌における会員の論文一覽

(昭和四年三月より昭和三十一年三月まで)

- |   |                     |                     |                         |
|---|---------------------|---------------------|-------------------------|
| 明治短歌史一、二、三、四<br>万葉人の歌へる北九州<br>一、二、三、四、五、六、七 | 小島吉雄 (能古昭4年4.6.8.9) | 明治新派和歌運動始末(4)       | 小島吉雄 (能古昭5年5)           |
| 明治初期の短歌<br>(明治短歌史の続き)                       | 春日政治 (能古昭4年5.6.7.8) | 万葉人の歌へる北九州          | 春日政治 (能古昭5年6)           |
| 時代の新機運と明治<br>初期の短歌(同前)                      | 小島吉雄 (能古昭4年10)      | 明治新派和歌運動始末(4)       | 小島吉雄 (能古昭5年6)           |
| 萩野由之の和歌改良論                                  | 小島吉雄 (能古昭4年11)      | 歌人としての坂上郎女          | 瀨古 確 (能古昭5年6)           |
| 青柳種信の事ども                                    | 小島吉雄 (能古昭4年12)      | 明治新派和歌運動始末(4)       | 小島吉雄 (能古昭5年7)           |
| 明治新派和歌運動始末                                  | 春日政治 (能古昭5年1)       | 雲出鳥還処漫談             | 春日政治 (能古昭5年8)           |
| 本居宜長の歌論に於ける<br>五言七言及び詞に就いて                  | 小島吉雄 (能古昭5年1)       | 池袋清風のことども           | 小島吉雄 (能古昭5年8)           |
| 明治新派和歌運動始末                                  | 副島典史 (能古昭5年1)       | 大伴旅人とその歌            | 瀨古 確 (能古昭5年10)          |
| 曾根好忠の歌                                      | 小島吉雄 (能古昭5年2)       | 浦のはまゆふ              | 黒岩義夫 (能古昭5年10)          |
| 越中守としての家持考                                  | 瀨古 確 (能古昭5年2)       | 大和情調                | 瀨古 確 (能古昭5年10)          |
| 「新派和歌大要」のこと                                 | 小島吉雄 (能古昭5年2)       | 所謂鉄幹子規不可並称問題        | 小島吉雄 (能古昭5年11)          |
| 曾禰好忠の歌(1)                                   | 小島吉雄 (能古昭5年3)       | 挽歌考                 | 瀨古 確 (能古昭5年11)          |
| 万葉人の歌へる北九州                                  | 春日政治 (能古昭5年4)       | 所謂鉄幹子規不可並称問題        | 小島吉雄 (能古昭5年12)          |
| 明治新派和歌運動始末(1)                               | 小島吉雄 (能古昭5年4)       | 万葉集卷七考              | 瀨古 確 (能古昭5年12)          |
| 曾根好忠の歌(1)                                   | 簗淵友一 (能古昭5年4)       | 齊食に就いて古代人の<br>思考を見る | 波多江種一 (九大国文学会誌 創刊号 昭5年) |
|   | 小島吉雄 (能古昭5年4)       | 九州における旅人と憶良         | 瀨古 確 (九大国文学会誌 創刊号 昭5年)  |
|   | 簗淵友一 (能古昭5年4)       | 青柳種信の「鳥門」の考から       | 春日政治 (能古昭6年1)           |

明治短歌史上に於ける明星派の運動(一)  
小島吉雄 (能古昭6年1)

万葉集に於ける叙景詩の發展  
瀬古 確 (能古昭6年1)

香川景樹と梅月堂  
小崎吉雄 (能古昭6年2)

雲出鳥還廻漫筆  
春日政治 (能古昭6年3)

山家集研究(一)  
秦 美種 (能古昭6年3)

山家集研究(二)  
秦 美種 (能古昭6年4)

マイルスといふ語  
春日政治 (九大国文学昭6年9)

隠阪本新古今和歌集と久原本  
小島吉雄 (九大国文学昭6年9)

本居宣長の古事記研究小論  
笹月清美 (九大国文学昭6年9)

万葉集卷十六考  
瀬古 確 (九大国文学昭6年9)

燕村の俳諧(一)  
白井田敏夫 (九大国文学昭6年11)

燕島に遺れるマラスルとメーラスル  
春日政治 (九大国文学昭6年11)

講説心中涙の玉の井(一)  
小島吉雄 (九大国文学昭6年11)

九州と文学  
春日政治 (九大国文学昭6年11)

わびの心鏡  
小島吉雄 (九大国文学昭6年11)

時枝誠記氏「古典註釈に現れた語学的方法」  
笹月清美 (九大国文学昭6年11)

野村八良氏「上代文学に現れた日本精神」  
笹月清美 (九大国文学昭6年11)

燕村の俳諧(二)  
白井田敏夫 (九大国文学昭7年2)

片仮名交り文の起源に就いて  
春日政治 (文学研究1 輯昭7年3月)

明治初期の歌論  
小島吉雄 (文学研究1 輯昭7年3月)

古訓漫談  
春日政治 (文学研究2 輯昭7年10月)

山居小話  
春日政治 (九大国文学会誌3号昭7年)

業間録  
小島吉雄 (九大国文学会誌3号昭7年)

宣命について  
笹月清美 (九大国文学会誌3号昭7年)

伊牟迦布神と面勝神  
波多江種一 (九大国文学会誌3号昭7年)

甌島方言集  
上村孝二 (九大国文学会誌3号昭7年)

宗祇の晩年  
小島吉雄 (文学研究3 輯昭8年2月)

「小学方言講義」より  
春日政治 (文学研究4 輯昭8年3月)

新古今和歌集の撰集態度と撰集事業  
小島吉雄 (文学研究5 輯昭8年7月)

万葉集用字法の体系的  
笹月清美 (九大国文学会誌5号昭8年)

研究  
白井田敏夫 (九大国文学会誌5号昭8年)

燕村を描く  
瀬古 確 (九大国文学会誌5号昭8年)

源氏物語に於ける夕顔の素描  
波多江種一 (九大国文学会誌5号昭8年)

八田知紀と高崎正風  
藤井 毅 (九大国文学会誌5号昭8年)

の紀行文  
春日政治 (九大国文学会誌7号昭9年)

日記文学の創作性  
青 敏夫 (九大国文学会誌5号昭8年)

和泉式部日記「おひたるあし」考  
春日政治 (九大国文学会誌7号昭9年)

鹿谿偶記  
小崎吉雄 (九大国文学会誌7号昭9年)

連歌書一夕話

岩政信比古とその著  
「古事記伝異考」

浮舟考

本能的さびしさに立  
てる家持  
―其の歌と越中について―

- 笹月清美 (九大国文学会誌 7号 昭9年)
- 藤井 毅 (九大国文学会誌 7号 昭9年)
- 杉山丈吉 (九大国文学会誌 7号 昭9年)

高野山にて観たる  
古點本一二

所謂石津本新古今和歌  
集に就いて

- 春日政治 (文学研究 7輯 昭9年 1月)
- 小島吉雄 (文学研究 8輯 昭9年 5月)
- 春日政治 (文学研究 9輯 昭9年 10月)
- 小島吉雄 (文学研究 11輯 昭10年 4月)

宇治拾遺物語の一本より  
連歌に於ける美的情調(一)

- 春日政治 (九大国文学会誌 8号 昭10年)

石山の石から  
本居宣長に於ける和歌  
史の成立

「日本文学書誌」散見  
万葉考をめぐって

- 笹月清美 (九大国文学会誌 8号 昭10年)
- 平井秀文 (九大国文学会誌 8号 昭10年)
- 春日政治 (九大国文学会誌 9号 昭10年)

小長谷達吉氏の「漢字  
私考」を読んで

- 新谷恒蔵 (九大国文学会誌 9号 昭10年)

「天祖都城弁」の  
著者について

- 笹月清美 (九大国文学会誌 9号 昭10年)
- 笹淵友一 (九大国文学会誌 9号 昭10年)

落窪物語の一節  
「更級の日記」文章への  
一瞥(一)

前出家本桂川地蔵記の  
調點

宣長晩年の文学思想  
連歌に於ける美的情調(二)

- 藤井 毅 (九大国文学会誌 9号 昭10年)
- 平井秀文 (九大国文学会誌 9号 昭10年)
- 瀬良益夫 (九大国文学会誌 9号 昭10年)
- 小島吉雄 (文学研究 12輯 昭10年 7月)

天平八年遣新羅使  
一行の歌

金光明最勝王経註釈一本の  
古點について

「万葉考をめぐって」補正

新古今和歌集註釈書

几上小篇

連歌師の日本精神文化  
史上の地位

建礼門院右京大夫の  
家集について

川嶋心貞述「宇津保  
物語考」について

万葉人の信仰と風習

甌島方言の系統について

山上憶良の人生観

くぐつゝの生活

古事記の文芸的性質に  
関する認識の発展

新古今集歌風と註釈の問題  
狂言詞覽書

詩歌にあらはれた梅花

- 笹月清美 (文学研究 13輯 昭10年 10月)
- 春日政治 (文学研究 14輯 昭10年 12月)
- 春日政治 (九大国文学会誌 10号)
- 春日政治 (昭11年 3月)
- 小島吉雄 (九大国文学会誌 10号)
- 小島吉雄 (昭11年 3月)
- 春日政治 (九大文学会誌 11号)
- 春日政治 (昭11年 7月)
- 小島吉雄 (九大国文学会誌)
- 小島吉雄 (昭11年 7月)
- 笹月清美 (九大国文学会誌)
- 笹淵友一 (九大国文学会誌)
- 笹淵友一 (昭11年 7月)
- 瀬古 確 (九大国文学会誌)
- 瀬古 確 (昭11年 7月)
- 上村孝二 (九大国文学会誌)
- 上村孝二 (昭11年 7月)
- 瀬良益夫 (九大国文学会誌)
- 瀬良益夫 (昭11年 7月)
- 岩崎宗次郎 (九大国文学会誌)
- 岩崎宗次郎 (昭11年 7月)
- 笹月清美 (文学研究 17輯)
- 笹月清美 (昭11年 10月)
- 小島吉雄 (文学研究 18輯 昭11年 12年)
- 春日政治 (九大国文学会誌 12号 昭12年)
- 春日政治 (九大国文学会誌 12号 昭12年)
- 小島吉雄 (九大国文学会誌 12号 昭12年)

秋津島物語について

源氏物語における「をかし」の位置

甌島語彙考

大般若経音義古鈔本解説稿

柳園資料

一種磨冤宣長の書簡

語学漫談

嘉麻川のほとり

法王帝説統考

文芸活動の機構

西府梅花宴

明治の戦争歌

「移ろひたる菊」備忘

聖語蔵御本央掘魔羅經の字音點

春日博士所蔵二十一代集中の新古今和歌集に就いて

本居宣長における道と文芸

後鳥羽院の御文学

語意考の成立過程を示す二三の伝本について

吉野の鮎

笹月清美(九大国文学会誌12号昭12年)

笹淵友一(九大国文学会誌12号昭12年)

上村考二(九大国文学会誌12号昭12年)

平井秀文(九大国文学会誌12号昭12年)

春日政治(九大国文学会誌13号昭12年)

新谷恒蔵(九大国文学会誌13号昭12年)

笹月清美(九大国文学会誌13号昭12年)

春日政治(文学研究21輯昭12年11月)

笹月清美(文学研究21輯昭12年11月)

春日政治(九大国文学会誌14号)

小島吉雄(九大国文学会誌14号)

笹月清美(九大国文学会誌14号)

春日政治(文学研究23輯昭13年6月)

小島吉雄(文学研究23輯昭13年6月)

笹月清美(文学研究23輯昭13年6月)

小島吉雄(文学研究25輯昭14年6月)

笹月清美(文学研究26輯昭14年12月)

高木市之助(文学研究27輯昭15年7月)

新古今集写本に於ける撰者名の頭書について

本居宣長の国語研究

国見歿

新古今集伝本考

小林歌城のテニヲハ説

古訓語彙小攷

富士古御杖の言語理論について

わが国近世の運命悲劇

牡丹芳

見るに随ひて

玉島川仙媛放

池袋清風の訳詩

一八五〇年和訳の馬太伝

酒仙供養

国木田独歩と基督教

額田王

文耕堂の合作浄瑠璃

「奥の細道」覚書

奈良朝時代東国方言の成立について(上)

芭蕉の「荒海や」の句について(一)

小島吉雄(文学研究28輯昭16年3月)

笹月清美(文学研究29輯昭16年8月)

高木市之助(文学研究30輯昭16年12月)

小島吉雄(文学研究30輯昭16年12月)

笹月清美(文学研究31輯昭17年6月)

春日政治(文学研究33輯昭18年12月)

笹月清美(文学研究33輯昭18年12月)

小島吉雄(文学研究33輯昭18年12月)

高木市之助(文学研究33輯昭18年12月)

小島吉雄(文学研究34輯昭20年3月)

高木市之助(文学研究35輯昭21年3月)

小島吉雄(文学研究35輯昭21年3月)

春日政治(文学研究36輯昭23年3月)

高木市之助(文学研究36輯昭23年3月)

笹淵友一(九大国文学会誌復刊号)

渋谷素男(九大国文学会誌復刊号)

横山正(九大国文学会誌復刊号)

小島吉雄(文学研究37輯昭23年12月)

福田良輔(文学研究37輯昭23年12月)

小島吉雄(文学研究38輯昭24年12月)

奈良朝時代東国方言の成立について(中)  
芭蕉の「荒海や」の句について(下)  
歌集「みだれ髪」を論ず  
奈良朝時代東国方言の成立について(下)  
藤村とシエイクスピア  
興福寺本靈異記訓釈考  
万葉植物の様相  
平仲説話の展開と平仲物語  
淨瑠璃の一限界  
形容詞を構成する一二の接尾語について  
去來の一句の解釈  
伝中御門宣秀筆金葉和歌集  
書評窪淵友一著「北村透谷」  
書評高木市之助著「湖畔」を讀む  
「奥の細道」の制作心理  
奈良朝時代東国方言成立に關する諸問題  
俳人文晝の研究  
啄木の社会思想について  
枕草紙漫考

福田良輔(文学研究38 輯昭24年12月)  
小島吉雄(文学研究39 輯昭25年3月)  
小島吉雄(文学研究40 輯昭25年11月)  
福田良輔(文学研究40 輯昭25年11月)  
窪淵友一(語文研究創刊号昭26年3月)  
平井秀文(語文研究創刊号昭26年3月)  
永井 寛(語文研究創刊号昭26年3月)  
目加田さくを(語文研究創刊号昭26年3月)  
横山 正(語文研究創刊号昭26年3月)  
秋山正次(語文研究創刊号昭26年3月)  
橋本元二郎(語文研究創刊号昭26年3月)  
石井和男(語文研究創刊号昭26年3月)  
重松泰雄(語文研究創刊号昭26年3月)  
立川昭二郎(語文研究創刊号昭26年3月)  
杉浦正一郎(文学研究41 輯昭26年3月)  
福田良輔(文学研究42 輯昭26年11月)  
杉浦正一郎(文学研究43 輯昭27年3月)  
重松泰雄(文学研究43 輯昭27年3月)  
田村専一郎(文学論輯第一号昭27年3月)

焼津辺の考  
動詞「あり」が融合する動機  
穴山孝道(文学論輯第一号昭27年3月)  
春日和男(文学論輯第一号昭27年3月)

古事記の純漢文的構文の文章について  
福田良輔(文学研究44 輯昭27年11月)

鷗外博士の俳句観、及び其の俳句について  
杉浦正一郎(文学研究44 輯昭27年11月)

九州蕉門の研究(一)  
「枯野家」と「枯野家集」  
杉浦正一郎(文学研究45 輯昭28年3月)

九州蕉門の研究(二)  
「漆川集」と筑前嘉穂俳壇について  
杉浦正一郎(文学研究46 輯昭28年8月)

筑前国志賀白水郎歌十首の作者の複数性について  
表現形式と伝誦性を中心にして  
福田良輔(文学研究46 輯昭28年8月)

毛利本「史記呂后本記」覚え書  
春日和男(文学論輯第二号昭29年3月)

国文学の内に在る仏教思想にはふ考  
穴山孝道(文学論輯第二号昭29年3月)

死に近き芭蕉  
「芭蕉の曲翠宛新資料書」を中心にして  
田村専一郎(文学論輯第二号昭29年3月)

古代語法存疑  
「エ列音」の連体形  
杉浦正一郎(文学研究48 輯昭29年3月)

古代語法存疑  
九州蕉門俳諧史概説  
福田良輔(文学研究48 輯昭29年3月)

杉浦正一郎(文学研究49 輯昭29年7月)

古代語法存疑(その二)  
「久語法について」  
福田良輔(文学研究50 輯昭29年12月)

芭蕉連句研究(一)の巻一  
 杉浦正一郎 (文学研究 50 輯 昭 29 年 12 月)

指定表現の様式  
 発生過程よりの考察一  
 春日和男 (文学研究 50 輯 昭 29 年 12 月)

「花桜をる少将」における  
 語彙  
 小弓その他一  
 春日和男 (文学研究 51 輯 昭 30 年 3 月)

芭蕉連句研究(二)  
 「けふばかり」の巻・  
 「芹焼や」の巻一  
 杉浦正一郎 (文学研究 51 輯 昭 30 年 3 月)

人癖呂長歌の修辭研究  
 一特に序詞の使用について一  
 岡本庸子 (語文研究 2 号 昭 30 年 5 月)

芭蕉と自然  
 一一つの手がかりをもとに一  
 森山 隆 (語文研究 2 号 昭 30 年 5 月)

九州野坡門の研究  
 一その形式の時代一  
 大内初夫 (語文研究 2 号 昭 30 年 5 月)

「天霧え」の訓について  
 鶴 久 (語文研究 2 号 昭 30 年 5 月)

現代語「からに」について  
 東 秀吉 (語文研究 2 号 昭 30 年 5 月)

徒然草第五章六段末尾の解釈  
 一さえある人はその事一  
 春日和男 (語文研究 2 号 昭 30 年 5 月)

芭蕉連句評釈(一)  
 一「うぐひすに」の巻(上) 杉浦正一郎 (語文研究 2 号 昭 30 年 5 月)

下照姫の歌  
 一歌格と提示法と一  
 春日和男 (文学研究 52 輯 昭 30 年 6 月)

倭建の命は天皇か  
 一古事記の用字法に即して一  
 福田良輔 (語文研究 3 号 昭 30 年 11 月)

落窪物語の笑ひ  
 大原一輝 (語文研究 3 号 昭 30 年 11 月)

仏教的と非仏教的  
 一今日平家物語をどう読む  
 べきかの問題に關連して一  
 井手恒雄 (語文研究 3 号 昭 30 年 11 月)

近松の姦通淨瑠璃  
 あゆひ抄の「立居」と「本」  
 横山 正 (語文研究 3 号 昭 30 年 11 月)

徳富蘆花と社会主義  
 寺園 司 (語文研究 3 号 昭 30 年 11 月)

芭蕉連句評釈(二)  
 一「うぐひすに」の巻(下) 杉浦正一郎 (語文研究 3 号 昭 30 年 11 月)

芭蕉連句研究(三)  
 一「松風に」の巻一  
 杉浦正一郎 (文学研究 53 輯 昭 30 年 12 月)

奈良朝時代東国方言の周辺  
 一言語基層・八丈島方言・  
 補説一  
 福田良輔 (文学研究 53 輯 昭 30 年 12 月)

枕草紙漫考二  
 一白馬節会一  
 田村専一郎 (文学論輯 第 3 号 昭 30 年 12 月)

鷗外の「鳥有先生」  
 一追鷗論争私考一  
 重松泰雄 (文学論輯 第 3 号 昭 30 年 12 月)

呪願と放生  
 穴山孝道 (文学論輯 第 3 号 昭 30 年 12 月)

「也」字の訓統考  
 一「なり」の表記として  
 の「也」字一  
 春日和男 (文学研究 54 輯 昭 31 年 3 月)